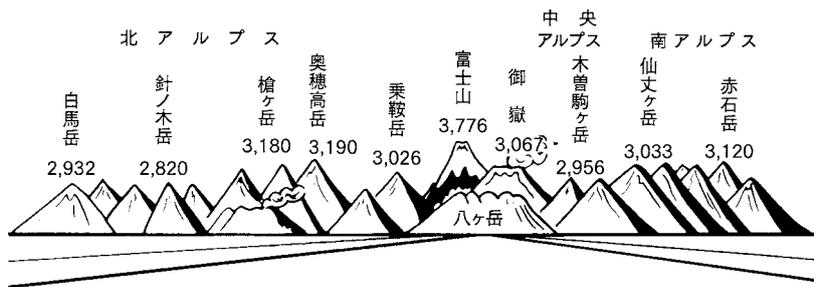


第 67 号

令和2年10月



砂防ニュースレター「長野」



ガン沢 (小谷村来馬)

目 次

- ・長野県治水砂防協会第82回通常総会開催、功労者表彰、講演会等 2、3
- ・副会長退任の挨拶 (前駒ヶ根市長) 4
- ・就任の挨拶 (田下昌志長野県建設部長) 4
- ・着任の挨拶：湯沢砂防事務所長 5
- ・令和元年台風対応状況・砂防施設効果、令和2年7月災害と対応について 6、7
- ・長野県砂防ボランティアだより 8
- ・令和2年長野県砂防課人事異動 8

長野県治水砂防協会第82回通常総会開催



令和2年8月7日、長野市内において第82回通常総会を開催いたしました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、感染拡大を防止する観点から、会員市町村、賛助会員のみでの出席で規模を縮小しての開催となりました。藤澤泰彦会長による開会の挨拶の後、砂防事業の推進に永年に亘りご尽力いただいた長野県治水砂防協会前副会長で天竜川上流直轄砂防事業促進期成同盟会前会長駒ヶ根市長の杉本幸治氏の表彰を行いました。

続いて、ご来賓の今井一之国土交通省水管理・国土保全局砂防部長、大野宏之一般社団法人全国治水砂防協会理事長、丸山大輔長野県議会危機管理建設委員長、田下昌志長野県建設部長の皆様から御祝辞を賜りました。引き続き議事に入り、令和元年度事業報告及び歳入歳出決算報告、令和2年度事業計画・収支予算（案）が審議され、いずれも原案どおり可決されました。また、退任等による役員改選がありました。

その後、休憩をとりながら会場の換気を行い、砂防講演会を開催いたしました。

今井一之国土交通省砂防部長、大野宏之（一社）全国治水砂防協会理事長、萬徳昌昭富士川砂防事務所長、永田雅一利根川水系砂防事務所長、鈴木啓介湯沢砂防事務所長、石田孝司松本砂防事務所長、植野利康多治見砂防国道事務所長、伊藤誠記天竜川上流河川事務所長、藤本済県砂防課長の皆様からご講演・話題提供をいただきました。



受賞後あいさつされる杉本氏



今井一之 国土交通省砂防部長



大野宏之 全国治水砂防協会理事長



丸山大輔 危機管理建設委員長



田下昌志 長野県建設部長



萬徳昌昭 富士川砂防事務所長



永田雅一 利根川水系砂防事務所長



鈴木啓介 湯沢砂防事務所長



石田孝司 松本砂防事務所長



植野利康 多治見砂防国道事務所長



伊藤誠記 天竜川上流河川事務所長

長野県治水砂防協会役員名簿

役名	氏名	職名
会長	藤澤泰彦	犀川支部長（生坂村長）
副会長	牛越徹	信濃川・姫川水系砂防工事促進期成同盟会長（大町市長）
〃	伊藤祐三	天竜川直轄砂防事業促進期成同盟会長（駒ヶ根市長）
〃	小池正充	下伊那支部（平谷村長）
〃	下川正剛	姫川支部長（白馬村長）
理事	佐々木勝	南佐久支部長（佐久穂町長）
〃	小園拓志	北佐久支部長（御代田町長）
〃	土屋陽一	上小支部長（上田市長）
〃	小田切康彦	上伊那支部長（宮田村長）
〃	柳島貞康	下伊那支部長（大鹿村長）
〃	唐澤一寛	木曾支部長（木祖村長）
〃	高野忠房	松塩筑支部長（麻績村長）
〃	岡田昭雄	更埴支部長（千曲市長）
〃	峯村勝盛	長野支部長（飯綱町長）
〃	足立正則	飯水岳北支部長（飯山市長）
〃	染野隆嗣	土尻川支部長（小川村長）
〃	中村義明	姫川支部（小谷村長）
監事	平林明人	大町支部（松川村長）
〃	甕聖章	犀川支部（池田町長）
参与	丸山大輔	長野県議会危機管理建設委員長
顧問	田下昌志	長野県建設部長
〃	郷津久男	（一社）全国治水砂防協会砂防シニアアドバイザー
〃	宮川正光	（一社）全国治水砂防協会砂防シニアアドバイザー
〃	松本久志	（一社）全国治水砂防協会砂防シニアアドバイザー
〃	杉本幸治	（一社）全国治水砂防協会砂防シニアアドバイザー

長野県治水砂防協会副会長退任あいさつ



前駒ヶ根市長 杉本 幸治

1月28日をもって駒ヶ根市長を退任し、長野県治水砂防協会の副会長も退任いたしました。副会長の任を無事務めることが出来たのも、会員の皆様のご支援とご協力、そして、県砂防課の皆さんの手厚いお支えの賜物と心から感謝を申し上げます。また、8月の総会では、表彰もしていただき感謝に絶えません。

私の住んでいる伊那谷は、昭和36年梅雨前線豪雨で甚大な被害を受けました。小学校6年の時でしたが、災害の翌日に子供の好奇心で友達と天竜川を見に行きました。新宮川との合流地点は大量の土砂とがれきで覆われており、その光景は想像をはるかに超え、いまでも鮮明に覚えています。その後の災害復旧工事は、国、県、市町村を中心に精力的に行われました。

昨年10月の台風19号では長野県においても東北信で千曲川の堤防の決壊などにより、残念ながら多くの災害が発生をしました。被災をされた皆さんには心からのお見舞いを申し上げますとともに、早期の復旧復興を願うところです。

この時の伊那谷の雨量は36災害時を上回る雨量でありました。しかし、先に述べた復興工事のおかげで、大きな被害は発生しませんでした。改めて、治水砂防事業の必要性を痛感いたしました。

私は、この間天竜川上流直轄砂防事業促進期成同盟会の会長を務めさせていただきました。36災害の体験から、急峻な地形や脆弱な地質で形成される当地域では、治水砂防事業は住民の安全安心のため欠かすことが出来ない事業との認識のもと、会員の皆さんと活発な活動を行ってきました。その成果として、昨年度天竜川中流域直轄地すべり対策事業が天竜村と阿南町で新たに実施されることになり感謝いたします。

長野県治水砂防協会は全国治水砂防協会のリーダーです。今後も各種事業に積極的に取り組んで頂き、地域住民の安全・安心の向上に努めて頂きたいと思っております。長野県治水砂防協会の発展と会員の皆様のご健勝をご祈念いたしまして退任の挨拶とさせていただきます。

長野県建設部長就任あいさつ



長野県建設部長 田下 昌志

この4月から建設部長に就任しました田下昌志です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、これまでの県職員人生の中で、延べ11年にわたり砂防行政に携わりました。

とりわけ平成29・30年の2年間の砂防課長在任中は、市町村長さんをはじめ、関係の皆さま方には大変お世話になりました。

さて、近頃、昨年の東日本台風災害に代表されるように、雨の降り方が変わりつつあり、災害は激甚化する傾向にあります。今年も7月梅雨前線豪雨では、県南部を中心に地域によっては、36災害を越えるような豪雨となりました。

しかし、着実に進めてきた砂防事業等の効果で、36災害のような悲惨な状況には至らずに済みました。これは、昨年の東日本台風においても明らかで過去の大規模災害時の2倍の雨量があったにもかかわらず、人的被害や家屋被害がなかった事例があるなど、長年にわたり整備してきた砂防堰堤等の効果が改めて認識されたところです。

一方、被災箇所については、よりよい復旧・復興に向けて、災害対策特別緊急事業等による砂防堰堤の新設や既存堰堤の除石・改築等を進めるとともに、要配慮者利用施設、避難所を守る砂防堰堤等の整備を今後とも着実に進めて参ります。土砂災害から住民の皆様の生命を守るためには、ハード対策に加え、ソフト対策も重要です。住民参加による地区防災マップ作成や防災訓練の実施支援、赤牛先生による防災教育の実施など、危機管理部とも連携を強化し、市町村の皆様の協力を得て、住民自らが災害を我が事としてとらえることによる逃げ遅れゼロを目指して取り組んで参ります。

魅力ある地域づくりの礎は、地域の安全・安心にあることは明らかです。新型コロナウイルス感染症という不測の事態下ではありますが、現在まさに直面している令和2年7月豪雨災害の対応を含め、砂防課はもとより建設部一丸となって、国や市町村、地元の皆様と連携し、これらの事業に取り組んで参ります。

会員の皆様には引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

着任の挨拶

国土交通省 北陸地方整備局 湯沢砂防事務所
所長 鈴木 啓介



4月1日より湯沢砂防事務所長を拝命いたしました鈴木啓介（すずきけいすけ）です。宜しくお願ひ致します。

私は長野県内で仕事をさせて頂くのは今回が2度目になります。前回は平成15年に松本砂防事務所に勤務しておりました。なお、その前年にも新潟県旧新井市に4ヶ月ほどおり北信地域に比較的近いエリアに滞在していました。当時は週末登山を趣味の一つに、苗場山や岩菅山方面にも足を伸ばしていました。今回の挨拶文の執筆を機に当時の記録を眺め直したところ、平成15年の秋に秋山郷方面から苗場山を越えて赤湯方面に抜けていった記録が残っていました。写真記録は、苗場山～鳥甲山方面を望む広大なパノラマ（下写真）などの風景写真のほか、ナメコ等のキノコ写真で埋め尽くされ、最後の一枚は何故か赤湯温泉（湯沢町内）に設置されている雨量計の写真で締めくくられていました。要は当時赤湯温泉側に下山したという記録に他なりません。今日の職場の湯沢砂防事務所所長室入口扉には偶然にも赤湯温泉の観光ポスターが貼られており、改めてご縁を感じた次第です。

さて、湯沢砂防事務所は関東と北陸を結ぶ交通の要所に位置する新潟県南魚沼郡湯沢町にあります。当地域では昭和6年に上越線が開通し、その直後の昭和10年の魚野川水害を契機に国直轄による砂防事業が始まりました。管内周辺には、花崗岩をはじめ火山性の脆弱な地質で構成される急峻な山々に端を発する急流河川によって広大な扇状地や谷底平野が形成されており、その上に重要インフラや地域の生活圏が広がっています。これまで幾多の大災害に見舞われており、今日では、信濃川の支川である魚野川、清津川、中津川の各流域で砂防事業を実施するに至っています。長野県内については、中津川の上流域である栄村、木島平村、山ノ内町の一部がその範囲に含まれています。

管内は、上信越高原国立公園、越後三山只見国定公園の一部を含み、谷川岳や苗場山、鳥甲山などの2,000m級の山々に囲まれ、豊かな自然環境につつまれています。新潟県湯沢町は言わずと知れたスキーと温泉の町です。観光客は関東圏だけでなく、今日では中国等の海外観光客も多く訪れます。豊かな自然環境を活かしたグリーンシーズンの誘客も少なくありません。長野県側では秘境とも言える秋山郷に多くの方が自然環境や自然体験を求めて訪れます。（残念ながら本年はコロナ禍の影響で観光客で賑わう様子はあまり見られず、外国人の方々は殆ど見かけることができません。）これら豊かな自然にかこまれた環境の中、湯沢砂防事務所においては、関東との大動脈をなす重要インフラ、そこで生活する方々の生活を守り、地域の発展を支える砂防事業を行っています。日々の仕事にあたっては、何より地域をよく知り、地域がどうありたいかを考えることが大事だと考えています。普段から各所に目を向け足を運んで地形や地理を知り、顔の見える関係づくりに努めて参りたいと思います。今年は残念ながら新型コロナウイルスの影響で多くのイベントが中止となり、地域の行事に参加する機会はほとんど得られておりませんが、週末の一来訪者としてでも、地域の風土や営みを直接感じ取ることを大事にしたいと考えています。また、大規模な災害時等における周辺地域への支援も念頭に、現在の事業エリアにとらわれることなく周辺地域へも目を向け足を運びたいと思います。

引き続き地域を守り発展につなげる砂防を進めてまいりたく、今後ともご支援、ご協力のほど宜しくお願ひ致します。



紅葉の中の中津川



秋晴れの苗場山（中央）～鳥甲山（向かって右側）方面

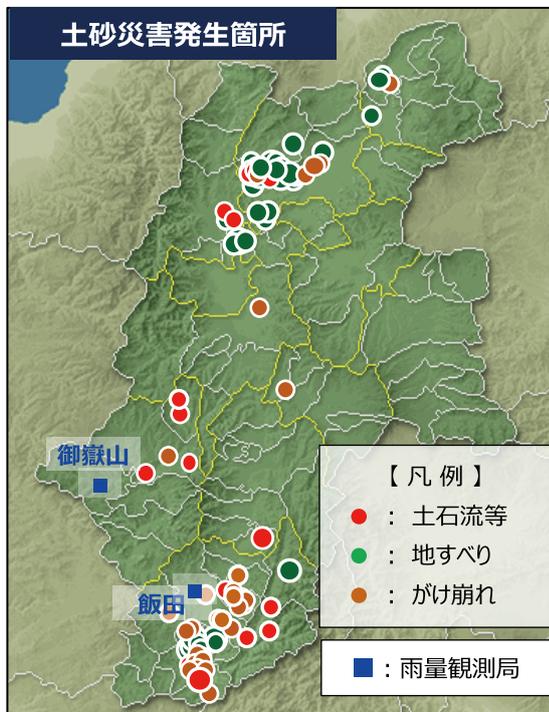
令和2年7月豪雨等^{*}と土砂災害について

※令和2年6月30日から7月31日までの一連の降雨

6月30日から7月31日までの一連の豪雨により、県内では北信、木曾、下伊那を中心に84件の土砂災害が発生し、人的被害や家屋被害、避難指示等を伴う被害が生じました。

雨の降り方を、過去に大きな被害をもたらした梅雨期の災害時（①三六災害②平成18年7月豪雨災害）と比較すると、今回の雨は、長期間にわたり降り続き、かつ、強い雨が複数回降ったことで、総雨量は過去の災害を上回ったことがわかります。

「これまでと雨の降り方が違う」と感じた方も多かったのではないのでしょうか。



土砂災害発生箇所

土砂災害発生件数 **84件**

- 土石流：18件
- 地すべり：36件
- がけ崩れ：30件

令和2年7月豪雨等と既往災害の降雨データ比較

① 三六災害との比較（飯田）

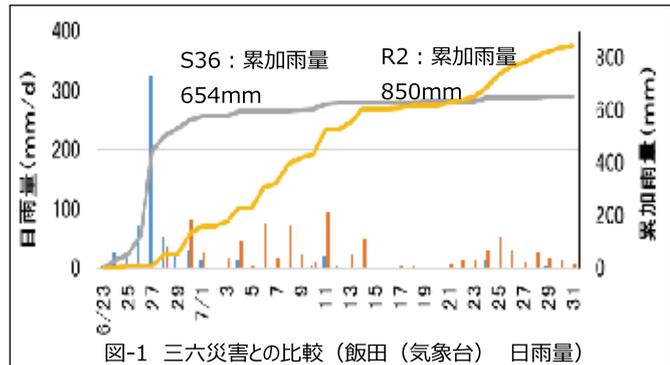


図-1 三六災害との比較（飯田（気象台） 日雨量）

凡例

- S36年日雨量(mm/d)
- S36年累加雨量(mm)
- R2年日雨量(mm/d)
- R2年累加雨量(mm)

② 平成18年7月豪雨との比較（御嶽山）

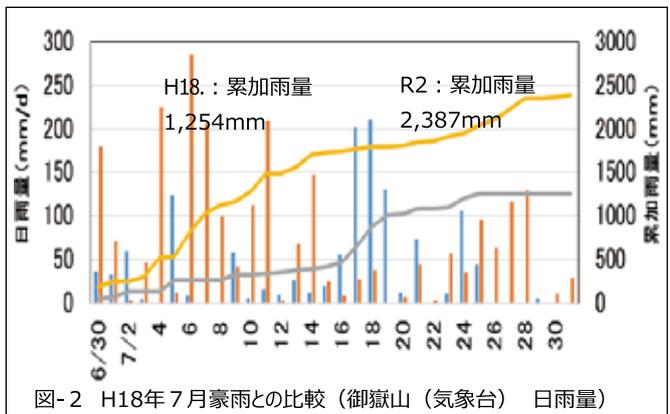


図-2 H18年7月豪雨との比較（御嶽山（気象台） 日雨量）

凡例

- H18年日雨量(mm/d)
- H18年累加雨量(mm)
- R2年日雨量(mm/d)
- R2年累加雨量(mm)

他方で、これほどの雨に見舞われながら、過去の被害のような状況に至らなかったという見方もまた重要です。

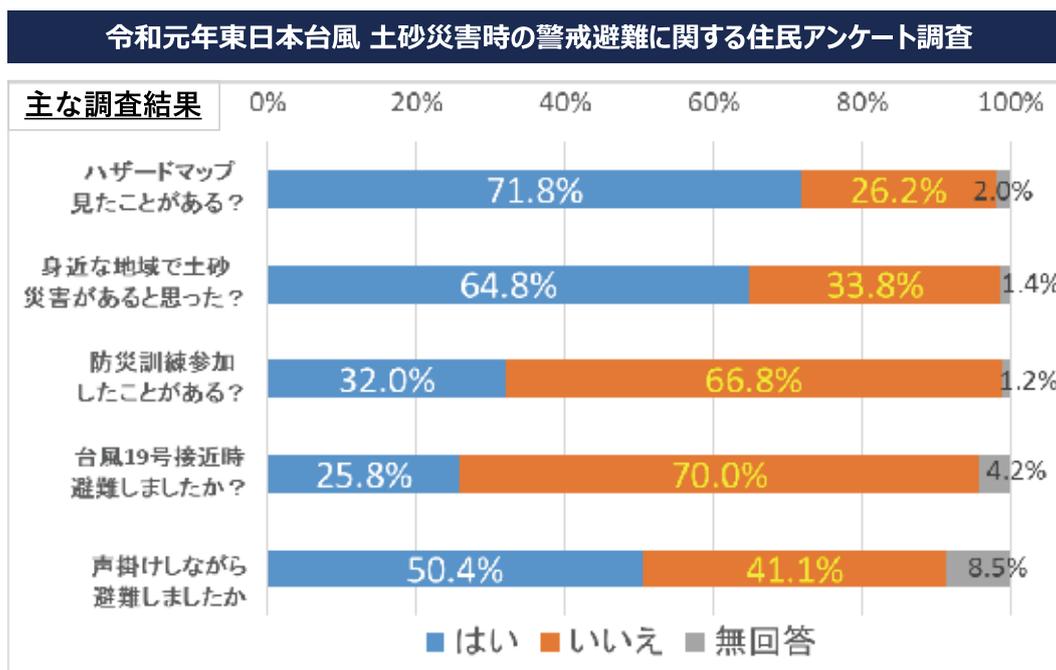
実際に砂防堰堤が土石流の土砂・流木を捕捉し、下流流域への被害を未然に防止した事例もあり、長年にわたり推進してきた砂防事業の効果と重要性を、改めて認識させられました。

現在、県では、9箇所での国の災害関連緊急砂防等事業の採択を受け、既に着手しています。県の事業にご支援ご協力いただきますようお願いいたします。

令和元年東日本台風から1年たちました

令和元年東日本台風は、千曲川流域を中心に未曾有の被害をもたらし、土砂災害は県下61件発生しました。現在、23箇所では災害関連緊急砂防等事業が鋭意進められています。一刻も早い復旧・復興に向け、引き続き関係機関並びに地域の皆様のご協力をお願いします。

さて、県砂防課では、令和元年東日本台風による土砂災害が発生した地域において、市町村や地元の方々の協力を得て、土砂災害時の警戒避難に関する住民アンケート調査を実施し、このほど結果を公表しましたので、その一部をご紹介します。



アンケート調査の概要

- ◎調査期間 令和2年3月～4月
- ◎調査対象 家屋被害を伴う土砂災害発生地域に居住する各世帯に調査票を配布。
(対象地域：上田市、佐久市、佐久穂町、長和町、筑北村)
- ◎調査方法 各戸配布後、郵送による回収。また、防災担当者へのヒアリングを実施。
- ◎配布・回収数 配布数：1,248件 回収数：500件 (回収率40%)

調査結果では、ハザードマップを見たことのある人、理解している人が比較的高率で、全国的に大規模な災害が発生している中、ハザードマップが浸透してきていることが伺えます。しかし、実際の準備や行動に結びつくにはまだまだ課題があるといえそうです。

県砂防課では、アンケート結果を踏まえ、土砂災害から命を守るために、①「自分のいる場所の危険を知る」、②「危険を避ける方法を考える」、③「避難は声を掛け合って」の「三つの備え」が重要と改めて認識し、地区防災マップ作成支援や“赤牛先生”派遣による地域での防災教育事業など「三つの備え」を支援する取組みを引き続き推進して参ります。

アンケート調査の詳細は、県ホームページ（※）でご覧になれます。ぜひ各地域における防災意識向上の取組みに活かしていただけたいと思います。

※掲載ホームページアドレス <http://www.pref.nagano.lg.jp/sabo/siryou/taihu19.html#tyosakeka>

●赤牛先生を派遣しました

昨年度、県内55会場、約1,800人の方々にご参加いただいた防災教育事業（通称：赤牛先生）について、今年度も長野県と委託契約し、県内各地に講師として赤牛先生（ボランティア会員）を派遣しております。2年目を迎えた本事業ですが、新型コロナウイルス感染症対策に十分に配慮しながら、昨年の東日本台風災害の内容を追加するなど、常に新しい情報を提供できるように心がけております。

参加者からは、「住民の防災意識の高揚につながると思う」等の感想を頂いており、赤牛先生の派遣を通じて地域防災力が向上していると実感しております。今後もよりよい防災教育ができるように、関係機関等と連携を深めてまいります。



赤牛先生の様子（R2.9月 大桑村）

●砂防堰堤を緊急点検しました



堰堤点検の様子（R2.8月 飯田市）

長野県は、令和2年7月豪雨で大雨特別警報が発表され、多くの土砂災害が発生しました。中でも、下伊那地域では、大規模な土砂崩れが発生し、国道や県道が長期にわたり通行止めになるなど、今日においても地域住民の生活に大きな影響が生じています。

この7月豪雨の対応として、長野県飯田建設事務所の派遣依頼により、台風シーズンに備えた砂防堰堤の緊急点検を下伊那地域で実施しました。19箇所の堰堤の堆砂状況等を点検した結果、異常は確認されず、今回の点検を通じて、地域の安心・安全に寄与できたと思います。

●新型コロナウイルス感染症対策のため、書面にて定期総会を開催しました

令和2年6月17日に、協会設立以来初となる「書面による定期総会」を開催しました。各会員への資料送付や返信された議決書の取りまとめ等、慣れない作業で大変でしたが、会員の方々の過半数以上の賛成により、今年度の活動計画や予算等が承認されました。

また、例年総会に併せて講習会を実施しておりましたが、今年は残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。なお、講習会以外でも、協会の活動に影響が生じているため、今後、新型コロナウイルス感染症が終息に向かうことを祈るばかりです。

令和2年4月 長野県建設部砂防課・人事異動

◎転入

課長補佐兼総務係長へ

井出 毅（佐久建設事務所）

調査管理係へ

山崎 和貴（土尻川砂防事務所）

調査管理係へ

林 愛美（松本地域振興局）

砂防係へ

渡邊 輝嗣（姫川砂防事務所）

◎転出

北信地域振興局 企画振興課長へ

北澤 良和（課長補佐兼総務係長）

松本建設事務所 維持管理課へ

笹田 麻純（調査管理係）

危機管理防災課へ

篠田 健太（調査管理係）

建設政策課 技術管理室へ

北原 誠（砂防係）

●第67号 編集・発行 長野県治水砂防協会 〒380-8570 長野市大字南長野幅下692-2 長野県庁砂防課内
TEL：026(232)0144 FAX：026(233)4029 E-mail：n-sabo@sky.plala.or.jp